

音楽科学習指導案

指導者 呉市立広南中学校

教諭 牛尾 麻衣子

- 1 日時 平成25年11月22日(金) 第4校時(11:45~12:35)
- 2 学年 第1学年A組(男子13名 女子9名 計22名)
- 3 場所 広南中学校 音楽室
- 4 題材名 詩や曲の雰囲気合った声で、言葉を大切に歌おう
(教材名:「赤とんぼ」 三木露風 作詞 山田耕筰 作曲)
- 5 研究主題 主体的に学び、工夫して表現する力を高める授業の創造
~義務教育9年間を見通した言語活動の充実を通して~
- 6 題材について

- 本題材は、中学校学習指導要領音楽の示す第1学年「A 表現」(1)歌唱の事項ア「歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと。」に基づいて構成されており、[共通事項]のうち音色、旋律、強弱等を扱う。

本題材では、歌詞の内容に共感したりそれが表す情景に思いを馳せたりして、音楽の特徴とかかわらせながら、自分たちで工夫して表現することをねらいとしている。

本題材で扱う「赤とんぼ」は、日本の情緒豊かな曲として、人々に親しまれてきた日本の代表的な童謡の一つである。ゆったりとした速度で、言葉の抑揚に合わせて旋律がつけられているのが特徴である。歌詞は作詞者である三木露風自身の幼い頃の記憶からつくられており、内容は大変叙情的である。

- 本学級の生徒は、前単元において、シューベルトの「魔王」の学習を行った。そのときに、一人の歌い手の声の変化を敏感に聴き取り、生徒のワークシートには「一人で変化をつけていてすごかった。」「私も歌うときに工夫したい。」等、表現の工夫に関心が見られる記述がたくさん見られた。また、それぞれの登場人物の声の音色を工夫して、歌唱の表現活動を行った。これらの学習を通して、歌詞の内容をもとに表現することへの関心を高め、そして、歌声の音色を考えながら歌うことができた。

しかし、「実際に歌うこと」については、苦手と感じている生徒が多い。その大半の理由は「恥ずかしい」「間違うのが怖い」であり、歌うことへ自信がもてない実態がある。実際に歌うときも、声が出にくい実態がある。また、「曲の内容まで考えながら歌っている」に対しては「考えている」と答えた生徒は6割と少なかった。

- 指導にあたっては、第一時で歌詞をしっかりと読ませることで、生徒に楽曲への関心をもたせるようにする。また、歌詞の内容は、一方的に説明するのではなく、生徒に問いかけながら解釈を促すことで、生徒自身から歌詞の内容に踏み込ませ、共感させていきたい。また、絵カードを用いて、歌うときに生徒が情景を思い浮かべやすくするための手立てにしたい。

第二時では、楽曲を聴いて感じ取った特徴をもとに、旋律を歌わせる。また、音の跳躍が随所に出てくるので、無理のない発声で歌わせたい。そして、歌詞を朗読し、言葉の抑揚に合わせて旋律がつけられていることに気付かせ、日本歌曲の美しさを感じ取らせたい。

第三時では、強弱に着目して歌い方を考えさせる。まず、個人で、曲にふさわしいと思う強弱記号を、強弱記号を省いた楽譜に記入させる。その時に、なぜそのように歌いたいと考えたのかも一緒に書き込ませるようにする。個人で考えた後、全員で交流し、どの歌い方が曲に込められた思いをより伝えることができるか、実際に歌い比べながら強弱の効果を感じ取らせていく。また、考えを発表さ

せ、実際に歌い、歌詞の内容に踏み込んだ歌い方になっているか生徒に問いかけながら、思考を深めていきたい。最後に、全体場で共有することで、表現の工夫を全員で深めたい。また、強弱記号の復習を、フラッシュカードを用いて強弱記号とその意味を、声で表現させながら行っていく。

最後の第四時では、これまでの学習を活かし、一人一人の表現の工夫を生かして歌わせる。生徒のよいところをしっかりと評価し、声が出しやすい雰囲気につなげたい。

7 題材の目標

- 「赤とんぼ」の歌詞が表す情景や心情、曲の表情や味わいに関心を持ち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組む。

【音楽への関心・意欲・態度】

- 「赤とんぼ」の音色、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想にふさわしい音楽表現を創意工夫する。

【音楽表現の創意工夫】

- 「赤とんぼ」の歌詞の内容や曲想を生かした歌い方をするために必要な発声、発音、身体の使い方を身に付けて歌う。

【音楽表現の技能】

8 題材の評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
題材の 評価規準	① 「赤とんぼ」の歌詞が表す情景や心情、曲の表情や味わいに関心をもっている。 ② 「赤とんぼ」の歌詞が表す情景や心情、曲の表情や味わいを生かし、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	① 「赤とんぼ」の音色、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。 ② 感受したことをもとに、「赤とんぼ」の歌詞の内容や曲想にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	① 「赤とんぼ」の歌詞の内容や曲想を生かした歌い方をするために必要な発声、発音、身体の使い方を身に付けて歌っている。

9 題材の学習指導計画（全4時間）

時	学習内容	評価				
		関	創	技	評価規準	評価方法
1	○「赤とんぼ」の歌詞の内容に関心をもつ。 ・曲を聴いて感じたことを交流する。 ・歌詞から情景を想像する。 ・作詞者の言葉から、曲の背景を知る。	○			「赤とんぼ」の歌詞が表す情景や心情、曲の表情や味わいに関心をもっている。(関①)	行動観察 ワークシート
2	○「赤とんぼ」の曲の特徴をつかみながら、旋律を歌う。 ・曲を聴いて声や旋律の特徴を感じ取り、それらを生かして旋律を歌う。 ・歌いながら、言葉の抑揚と旋律の関係をつかむ。		○		「赤とんぼ」の音色、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。(創①)	行動観察
3 本時	○「赤とんぼ」の曲にふさわしい歌い方を工夫する。 ・強弱、旋律の動きを手掛かりにして、歌詞の内容が伝わる歌い方を考える。		○		知覚・感受したことをもとに、「赤とんぼ」の歌詞の内容や曲想にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(創②)	行動観察 ワークシート
4	○思いや意図をもって歌唱表現する。 ・学習したことをもとに、自分が歌いたい部分を選んで歌う。	○		○	「赤とんぼ」の歌詞が表す情景や心情、曲の表情や味わいを生かし、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。(関②) 「赤とんぼ」の歌詞の内容や曲想を生かした歌い方をするために必要な発声、発音、身体の使い方を身に付けて歌っている。(技①)	演奏の聴取 ワークシート

10 本時の学習

(1) 本時の目標

「赤とんぼ」の音色、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想にふさわしい音楽表現を創意工夫する。

(2) 本時の評価規準

感受したことをもとに、「赤とんぼ」の歌詞の内容や曲想にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。

(3) 準備物

ワークシート 拡大楽譜 水生マーカー ピアノ フラッシュカード

(4) 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する状況」と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準 (評価方法)
導入	1 黙想・挨拶 2 ストレッチ・発声	◇身体や緊張感をほぐさせる。 ◇姿勢に気を付けさせる。	しっかり教える 強弱記号の意味を確認する。
展開	3 本時の目標を知る。 「赤とんぼ」の歌詞に込められた思いが伝わる歌い方を工夫しよう。		
	4 歌詞の思いを確認する。 5 強弱記号の復習をする。 6 1フレーズ目を、自分たちの考えた強弱の工夫をもとに交流する。	◇作詞者の幼い頃の記憶やそのことに対する思いが歌われていることをおさえておく。 ◇フラッシュカードを使って強弱記号の意味を、声で表現させながら確認させる。 ◇前時まで、曲の雰囲気や歌詞の内容からどのように強弱の変化をつけると思いが伝わる歌い方になるか、ワークシートを使って個人で考えさせておく。 ◇考えを発表させ、実際に歌いながら強弱の効果を確認する。 ◇表現の仕方で分かりにくい部分があれば教師が範唱する。	(創) 感受したことをもとに、「赤とんぼ」の歌詞の内容や曲想にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 【Bと判断される状況】歌詞の内容から、どのように歌いたいかについて、音楽の要素と結び付けて、自分なりの思いや意図を1つでも記述している。(ワークシート) 【Aと判断される状況】歌詞の内容から、どのように歌いたいかについて、音楽の要素と結び付けて、自分なりの思いや意図を具体的に記述している。(ワークシート)
	7 2フレーズ目の歌い方を考える。 (1) 個人 (2) ペア	◇歌詞の情景や作詞者の心情に振り返らせながら、強弱に着目させて表現方法を考えさせる。 ◇ただの強弱だけではなく、どのような音量や音色なのかを考えさせる。 ◆教師が範唱し、比較させ、選ばせる。	はっきり表現させる 根拠を明確にして、自分の考えと友達の考えを交流し合うことにより、楽曲にふさわしい歌い方の工夫につなげる。
	8 歌い方をまとめる。	◇生徒が共有できるように、準備した拡大楽譜に、マジックで記入させる。	

じっくり考えさせる

なぜ、その歌い方がふさわしいと思うのか、自分の考えをもたせる。

はっきり表現させる

根拠を明確にして、自分の考えと友達の考えを交流し合うことにより、楽曲にふさわしい歌い方の工夫につなげる。

まとめ	9 学習のまとめ・ 振り返り 10 次時の予告	◇強弱を工夫することによって、作曲者の 思いが伝わる歌い方になったか。	
-----	--	--	--

1 1 板書計画

めあて 「赤とんぼ」の歌詞に込められた思いが伝わる歌い方を工夫しよう。			
—強弱記号を手がかりにして—			
2 番の歌詞			
歌詞の 絵カード	○露風が幼い頃に、子守娘の姐やと 山の畑に行き、桑の実を摘んだ思い出	(拡大譜)	(拡大譜)
歌詞の 絵カード			
歌詞の 絵カード			
歌詞の 絵カード			

赤とんぼ

夕やけ小やけの 赤とんぼ
 負われて見たのは いつの日か
 山の畑の桑の実を
 小籠に摘んだは まぼろしか
 十五で姐やは 嫁に行き
 お里のたよりも 絶えはてた
 夕やけ小やけの 赤とんぼ
 とまっているよ 竿の先

○歌詞の内容からあなたが感じたこと、考えたこと等を書きましょう。
 また、特に印象に残った部分とその理由を書きましょう。

感じたこと、考えたこと 等

印象に残った部分	理由

自己評価

自己評価 (A・B・C)	振り返り	忘れ物 (何を)
歌詞の内容をしっかりと つかむことができた。 【 】		なし・あり ()

曲の特徴を感じ取りながら、旋律を歌おう

音楽のキーワード	特徴
音色 (どんな声で歌っているか)	
旋律 (音のつながりはどうなっているか)	

それらによって、曲全体はどんな感じに伝わってくる？

自己評価

自己評価 (A・B・C)	振り返り	忘れ物 (何を)
曲の特徴を感じることができた。 【 】		なし・あり ()
曲の特徴を意識しながら歌うことができた。 【 】		

歌詞の情景や作詞者の気持ちを考えながら、

2 番の歌い方を考えよう。

【書き方で気をつけること】

* 楽譜の上側の () の中に記号を書くこと。

* 強弱記号

p	mp	mf	f	<	>
---	----	----	---	---	---

 など を使うこと。

* 楽譜の下の

--

 に、なぜそのような強弱にしたのか理由を書くこと。

< 1 フレーズ目 >

()

理由

< 2 フレーズ目 >

()

理由

【書き方で気をつけること】

* 楽譜の上側の () の中に記号を書くこと。

* 強弱記号 p m p m f f < > など を使うこと。

* 楽譜の下の に、なぜそのような強弱にしたのか理由を書くこと。

< 2 フレーズ目 >

()

理由

自己評価

自己評価 (A・B・C)	振り返り	忘れ物 (何を)
曲にふさわしい歌い方を考えることができた。 【 】		なし・あり ()

あなたが選ぶ「赤とんぼ」の歌手No. 1

友だちの歌い方で、曲の素晴らしさが伝わったのは誰ですか？

名前	素晴らしかったところ

自己評価

自己評価 (A・B・C)	振り返り	忘れ物 (何を)
曲の素晴らしさが伝わる歌い方ができた。 【 】		なし・あり ()
友だちの演奏をしっかりと聴くことができた。 【 】		